

平成 29 年度 伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討会議 会議録

【日 時】平成 29 年 9 月 1 日（金） 14 時～16 時

【場 所】修善寺生きいきプラザ

【出席者】26 名

機関・団体・役職名等	氏名	役職
伊豆市商工会長	青木 喜代司	会長
伊豆市区長会長	勝呂 義衛	副会長
伊豆市観光協会会長	小森 泰信	委員
県立伊豆総合高等学校 副校長	松井 英樹（※代理出席）	委員
伊豆市教育委員	植松 真由美	委員
NPO サプライズ 事務局長	森嶋 康代	委員
伊豆市 主任児童委員	内田 直美	委員
J A 伊豆の国 修善寺営農センター長	山邊 充伸	委員
静岡銀行 修善寺支店長	宮本 幸夫	委員
(株) FM I S	仙座 夏子	委員
伊豆市長	菊地 豊	
副市長	本多 伸治	
教育長	西井 伸美	
総合政策部長	田村 英樹	
総務部長	伊郷 伸之	
市民部長	梅原 敏男	
健康福祉部長	村井 克代	
観光商工課長	塩谷 為善（※代理出席）	
建設部長	山田 博治	
教育部長	金刺 重哉	
総合戦略課長	佐藤 達義	事務局
総合戦略課 主幹	三浦 高幸	事務局
総合戦略課 主査	杉山 暁彦	事務局
総合戦略課 主任	渡邊 敦士	事務局
総合戦略課 主任	下村 亮介	事務局
総合戦略課 副主任	浅田 憲彦	事務局

【資 料】

- (1) 次 第
- (2) 検討会議設置要綱・委員名簿
- (3) 【資料 1】伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要版
- (4) 【資料 2】伊豆市総合戦略策定後の経過について
- (5) 【資料 3-1】地方創生関係交付金の概要 イメージ図
- (6) 【資料 3-2】地方創生加速化交付金事業概要
- (7) 【資料 3-3】地方創生推進交付金・拠点整備交付金事業概要
- (8) 【資料 4】市民アンケート調査結果概要
- (9) 【資料 5-1】伊豆市まち・ひと・しごと総合戦略 平成 28 年度の実績評価(総括)
- (10) 【資料 5-2】伊豆市まち・ひと・しごと総合戦略 成果目標 実績管理表

## 1. 開会

## 2. 委嘱状交付（省略）

## 3. 市長挨拶

皆様、こんにちは。

この度は、総合戦略検討会議の委員をお引き受けいただくとともに、本日は、大変ご多用の中、ご参集賜りまして、誠にありがとうございます。伊豆市の未来に向けた総合戦略ですので、引き続きご尽力いただければと思います。

皆様ご承知のとおり、国は平成26年の11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、伊豆市においても平成27年10月に、皆様のご協力をいただき、人口ビジョンと総合戦略を策定しました。その中の3つの基本目標は、1つが“産業政策を進めることによって雇用を創出するとともに交流人口を拡大していく”、2つ目が“子育て支援や教育を充実させて出生率を上げていく”、3つ目として“魅力あるまちづくりによって、定住人口を増やしていく”となっています。また、それぞれの取組の成果目標数値を掲げており、数値目標は事業進捗を管理する意味でも有効な場合がございますので、是非、具体的に検証し、足らざるところは改善し、達成した部分は新たな目標値を設定するといった手続きを取っていきたいと考えております。

本日は、皆様のそれぞれのお立場から忌憚のない様々なご意見を賜りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

## 4. 会長・副会長の選任

会 長：青木 喜代司 氏

副会長：勝呂 義衛 氏に決定

## 5. 議 事

### （1）伊豆市総合戦略概要について

【資料1】に基づき、事務局より説明

### （2）伊豆市総合戦略策定後の経過について

【資料2】に基づき、事務局より説明

### （3）地方創生交付金関連の取組状況について

【資料3-1】、【資料3-2】、【資料3-3】に基づき、事務局より説明

### （4）平成29年度 市民アンケート調査結果概要について

【資料4】に基づき、事務局より説明

### （5）伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI及び施策評価について

【資料5-1】、【資料5-2】に基づき、事務局より説明

《 質疑応答・意見交換 》

副会長	戦略体系3のコンパクトタウン&ネットワークの推進における成果指標として、「特定空き家への対応件数」から「危険空き家への対応件数」への変更と目標値の上方修正を行いたいということであるが、こういった視点でこのように設定したのか。
事務局	当初、「特定空き家」という非常に困った空き家を指定して取り組むということで目標設定したが、いざ事業を開始してみると法的手続きを踏んだうえで特定空き家として認定して取り組む方法と、今回の「危険空き家」という、そもそも調べて危険だというものに対し、法的手続きの前段階で対応するという2つの方法があったため、同じように空き家を解消することには変わりはないため、法的手続きの前段階で危険な空き家に対応しようということで指標の変更をさせていただいた。また、昨年度、防災安全課にて各区長様のご協力をいただき、危険と思われる空き家調査を実施し、本当に危険なものから優先度をつけて取り組むという目標を立てているため、数値を上方修正し、取り組んでいきたいと考えている。
委員	観光協会においてもインバウンド委員会を開催し、行政をはじめとした関係者と協議を行ったうえで、事業を実施している。観光に関しては何をやったら正解というものが非常に把握しにくいものだと思っている。現在の市の取組内容についても、関係者との協議したうえで事業を展開していると認識しているため、特に意見というものはない。
委員	当初の総合戦略策定段階から会議で話をさせていただいているため、内容についての意見は特にない。
会長	商工業の事業者数は、廃業もある一方で創業も年間20件程度あり、事業者数は、さほど減少していないが、商工会への負担金やメリットが無いといった理由から、商工会の会員数は年間30件程度減少している。現在は、1,000件前後であり、5年前に比べて150件程度減少している状況である。 また、事業継承されずに廃業してしまうケースも多い。 商工会としても空き店舗対策は非常に重要だと認識しており、より一層の取り組みを進め、空き店舗解消に繋げていただきたい。

- 委員 小中学校における地域と連携した取り組みが紹介されているが、伊豆総合高校においても、類似した活動を行っている。三島・沼津の高校と比べると、地域の方々のご協力も得やすく、生徒からも地域に入っていくながら連携活動を行うことが出来ている。また、小中学校の生徒が体験してきたことを、伊豆総合高校においても引き続いて実施出来るという点も改めて確認することが出来た。今後も地域と一体となり、地域で活躍する人材を育てることを目標に活動を継続していきたい。
- 委員 資料を見ると、学校教育の満足度が非常に高く、先生方の頑張りや、保護者の方々のご協力によるものだと嬉しく感じている。  
また、新中学校については再スタートとなってしまう、課題は山積みであるが、未来の宝である子どもたちの教育環境の向上に向け、皆様のご協力もお願いしたい。
- 委員 当NPOにおいて移住相談を受けた際に、就職案内(求人情報の提供)は出来るが、住宅の案内が大きなネックとなっている。田舎暮らしや地方への移住を題材としたTV番組の影響も大きく、一戸建て畑付きの物件に格安の家賃で住んでいるようなケースが大々的に放送されると、移住希望者もTV番組のイメージで相談や問い合わせに来るケースが非常に多い。また、いきなり田舎の物件を購入するのは抵抗があるため、賃貸物件を希望される方が非常に多いが、実際には売買物件はあっても賃貸物件での一戸建てはなかなか出てこないため、悩ましく感じている。空き家対策等の施策により、賃貸物件を提供して下さる方が少しでも増えてくれることを期待している。  
また、起業をきっかけに移住したい方もおり、家賃補助の制度等を紹介すると可能性を感じてくださり、興味を示してくれる方もいる。また、地元でハブ(仲立ち人)となってくれる人が重要であり、いかにそういったキーマンを見つけるかが非常に大切な点になってくると思う。
- 委員 子育てに関して、伊豆市は小中学校の連携がとても良く出来ていると感じている。また、地元のワサビについての学習などといった地域への愛情を持った子どもを育てるような教育が非常に大切であると思う。地域の人々も積極的に協力して下さっており、地域と一体となった取り組みをもっと情報発信出来ると良い。また、子育て施策についても、市が力を入れて取り組んでいるのに、それが上手く伝わっていないように感じるため、効果的なPR・情報発信が非常に重要な課題であると思う。  
一方、市内における子育てサークルや子育てママスタッフによる活動やイベント開催などといった市民の力・若い力による取り組みがより一層広ま

って欲しいと感じる。また、原保の子育て支援センターの利用状況が好調な理由として、園庭でのびのびと親子で遊べる点が魅力的であるということで、市内の他の場所にもそういった場所が出来てくると良いと思う。こどもを安心して遊ばせられる場所として、公園のニーズも高いようである。発達支援を必要としたお子さんも多くなっているため、そちらの対応も併せて考えていただけると有り難い。

委員

銀行でも地方創生部という部署を創設し、活動も軌道に乗ってきているところである。市が実施している様々なプロジェクトについて、現在、銀行でも取り組んでいる内容もあるため、是非、市と一緒にやっていきたい。例えば東京ビックサイトでの出展や企業誘致の銀行への相談もあるため、産業振興協議会等と一緒に仕掛けていきたいと考えている。また、教育分野でも子どもたちを対象に“地元・伊豆を好きになろう”というイベントも企画・実施しているところである。今後もお互いに密に情報交換・情報共有しながら、是非一緒に取り組んでいきたいと思っている。

委員

防災フリーメールについて、外国人向けの配信もあった方が良いと思う。また、いざという時の外国人観光客の誘導等の訓練も必要だと感じる。若者交流プロジェクトのIリーグにおいて女性参加者が増えていかないということであるが、やはり“婚活”と見られてしまうようなイベントには女性からすると行きづらい。“婚活”とうたわずに、伊豆市の魅力を体験してもらいながら伊豆市のファンを増やすようなイベントでも良いように感じる。自分も移住者と地元の若者との交流イベントを開催しており、多くの方に参加していただいている。移住者同士の情報交換の場も充実させていく必要があると思う。

会長

先程、事務局から資料5-2により説明のあった総合戦略のKPI評価案と平成31年の目標値の見直し(上方修正と指標単位に延べ件数を追加)について、皆様からのご承認をいただきたい。  
本日お示ししたKPI評価、目標値としてよろしいか。

《 異議なし ⇒ 承認 》

本日、皆様からいただいた貴重なご意見をもとに、検証結果を取りまとめ、公表させていただく。  
なお、皆様には今後も検証結果等についてご意見をいただければと考えているため、よろしくお願ひしたい。本日は会議にご出席いただき、ありが

とうございました。

【 閉 会 】